

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2018年度分）

2018年9月30日

計画研究班名： 総括班

計画班名：総括班

申請者氏名・所属・職名：安田一郎・大気海洋研・教授、西岡純・北大低温研・准教授

申請者連絡先 電話・メール：内 6040 ichiro@aori.u-tokyo.ac.jp

011-706-7655 nishioka@lowtem.hokudai.ac.jp

対象者氏名・所属・職名： ロシア船日本人乗船者20名（詳細版参考資料参照）

対象者連絡先 電話・メール：（詳細版参考資料参照）

相手先氏名・所属・職名： 同上

相手先連絡先 住所・電話・メール：同上

申請項目（複数可、数字を記入）：1, 3, 4, 8

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：日露共同ロシア船マルタノフスキー研究航海における研究者派遣

成果報告要旨（A4数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）：

2018年夏季に、OMIX ではロシア極東海洋気象学研究所（Far Eastern Regional Hydrometeorological Research Institute ; FERHRI）の協力を得て、大規模な日露共同観測航海を実施した。この航海は、国内外合わせて全16研究機関、総勢45名の研究者が参加するプロジェクトとして計画されたものである。2018年7月23日、各研究機関から31名（日本側25名+ロシア側6名）の研究者が船に乗り込み調査船 Prof. Multanovskiy 号が小樽を出港した。この航海では基礎的な水塊構造や流れを把握するための水温、塩分、流速、乱流混合などの物理パラメータから、植物プランクトン、栄養物質、化学トレーサー、堆積物など生物・化学パラメータに至る総合的な観測が実施された。計画されたほぼすべての測点からデータやサンプルの取得に成功している。船は、2018年9月14日に、全ての観測を終えて小樽に無事帰港した。航海終了後、本航海で得られたサンプルの分析やデータの解析を進めている。

全体計画・計画研究・公募研究への寄与：

日露共同ロシア船マルタノフスキー研究航海は、本新学術発足時から計画を練ってきた

重要航海である。今後、この航海の成果によって鍵となるエリアの理解が進み、OMIXの目指す縁辺海を含めた北太平洋の全体像を捉えることが出来ると期待できる。

制度の改善点・感想等：

航海の実施に当たっては、OMIX 総括班、国際支援班から多くの支援を頂いた。国際共同研究の推進に関しては、低温科学研究所事務部、東京大学事務部に多大な協力なしには実施不可能であった。特に、低温科学研究所・会計担当・岩崎圭祐氏、環オホーツク観測研究センター・篠原琴乃氏、東京大学大気海洋研究所・小林奈緒美氏には国際共同研究契約から個人の出張手続きに至るまで大変お世話になった。さらに航海前や航海実施中のいくつかの難しい場面では、陸上から多くの方々にご支援頂いた。56 日無寄港という長期航海であったが、乗船者の頑張りで航海の成功を収めることが出来た。この場を借りて上記すべての皆様に感謝の意を表す。

実際の日程：

- (1) 7月19日 小樽到着 積み込み作業
- (2) 7月23日 小樽出港
- (3) 7月25日 ウラジオストック到着，同日出港
- (4) 7月25日～9月10日
西部北太平洋，ベーリング海およびアナディール湾において観測を実施（観測の日程は表1のとおり）
- (5) 9月10日 ウラジオストック到着，同日出港
- (6) 9月13日 小樽到着 積み下ろし
- (7) 9月14日 積み下ろし 下船